

令和5年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1) 展示事業

① 特別展「芭蕉と蕪村」(9月1日～10月9日)

俳諧を芸術へと高めた松尾芭蕉と、芭蕉没後に蕉風復古運動の中心人物となり活躍した与謝蕪村。この二人を軸に江戸俳諧の大きな流れに焦点をあてて、江戸時代の俳諧文化の大きなうねりと、その魅力を紹介する。

② 企画展「芭蕉と門人たち」(4月14日～6月12日)

収蔵品の中から松尾芭蕉や芭蕉に影響を与えた先人たち、そして蕉門の人々の作品を紹介する。これにより、芭蕉の文学、芭蕉の俳諧が江戸時代に与えた影響を知っていただける展示とする。

③ 企画展「絵画に見る芭蕉の世界(仮称)」(6月15日～7月17日)

収蔵品の中から松尾芭蕉や「奥の細道」を描いた絵画を公開することにより、芭蕉の旅の様子を知るための手がかりとし、旅情に思いを寄せていただくと共に、絵画の美と魅力に触れていただくことのできる作品を公開する。

④ 企画展「妖怪の文学・美術(仮称)」(7月21日～8月28日)

妖怪は古来より様々な文学作品、美術作品に取り上げられ、松尾芭蕉も紀行文『おくのほそ道』の中で、妖怪「九尾の狐」の殺生石についてふれている。本展では、江戸初期から現代に至るまでの妖怪が登場する文学や美術作品を展示し、妖怪が日本文化の中でどのように語り継がれ、表現されてきたのか探る。

⑤ 企画展「山寺の歴史と文化(仮称)」(10月13日～11月27日)

山寺の歴史・文化を文書などの歴史資料によって紹介する。また、芭蕉など俳人・文人などに与えた影響に焦点をあて、山寺を文化との関わりから紹介する。

⑥ 企画展「収蔵名品展(仮称)」(12月1日～2月5日)

収蔵品の中から名品を展示する。㊦長谷川コレクションや尾形侑コレクションなど芭蕉関連以外の名品なども公開する。

⑦ 企画展「お雛さまと人形の美（仮称）」（2月9日～4月8日）

江戸時代の雛人形を中心に構成し、雛人形や桃の節句の歴史とその美術を展示して、日本文化の一端を紹介する。

(2) 普及啓発事業

① 第66回全国俳句山寺大会（7月9日）

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

② 第15回山寺芭蕉記念館英語俳句大会

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とする。

7月1日募集開始し、審査を経て、10月中に入選作品発表。

③ 第54回芭蕉忌俳句大会（10月29日）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④ 第30回山寺芭蕉記念館文化セミナー（10～11月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。4回連続講座。

⑤ 奥の細道マイスター養成講座（仮称）（6～11月）

「奥の細道」のマイスターやガイドを育成する講座を奥の細道マイスターの会・山形大学と連携して開催する。また、現在活動中のボランティアガイドのスキルアップのための講座も実施する。

⑥ 芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部（通年）

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内や立石寺境内等に投句箱を設置し、山寺観光協会と協力して投句選を行う。

⑦ 市民茶会

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑧ **茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）**

抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑨ **山寺感謝の茶会（11月23日）**

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

⑩ **ICTを活用した情報発信**

インターネットを媒体として、ホームページやSNS（フェイスブック）を活用して様々な情報を発信する。広報活動や松尾芭蕉・山寺等に関して積極的に情報を発信する。

⑪ **『山寺芭蕉記念館だより』の作成〔年1回〕**

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

(3) **調査研究事業**

① **収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業**

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けて、電子化のための準備と作業を行い、情報の発信に備える。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

当館の収蔵品を主に、最上家関係資料と山形城関係資料等から選定したものを常設展示して紹介するとともに、下記の3テーマで特設展示を行う。

①特設展示

1) 第一部「鐵の美 2023」(4月5日～7月30日)

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある日本刀の美しさを紹介する。

最上家ゆかりの刀剣を中心に武士との関係が明確な刀剣を選定する。

最上家家臣で大山城主・下吉忠ゆかりの刀や、最上義光没後に墓前で殉死した四人の忠臣の一人長岡光廣の子孫が代々伝承した刀剣類等を初めて一般に公開する。武士の魂とまで言われ、当時は命のやり取りの道具として用いられた日本刀だが、武士との関係性も理解しながら、世界に冠たる鉄の芸術品である日本刀の神秘的な美しさを鑑賞する機会とする。そして、数少ない最上家ゆかりの刀剣類を紹介することで、あらためて最上家に対する関心を高め、興味と理解を深める一助とする。

2) 第二部「(仮称) 武士の晴れ着 甲冑展」(8月2日～11月26日)

収蔵資料から「武士の晴れ着」といわれる甲冑類を紹介する。甲冑は当時最高の工芸技術の粋を集めた総合芸術の傑作で、武士の象徴でもあった。

戦場を駆け巡る武士達が贅を尽くし趣向を凝らして着飾る甲冑は、まさしく武士の晴れ着と言ってよい。また、鎧の形式の一つに「最上胴(もがみどう)」と呼ばれるものがあり、一説では「出羽最上(最上氏の領内)で発明された胴」と言われている。当館所蔵の最上胴を紹介しながら、最上家に対する関心を高め理解を深める一助とする。そして、甲冑を展示紹介することによって、武士の晴れ姿を演出し、武士達の心意気を感じながら戦国の世に想いを馳せる展示とする。

3) 第三部「(仮称) 山形城下絵図展」(11月29日～3月31日)

当館で収蔵する山形城下絵図を紹介する。山形城は今から約670年前の延文二年に最上家初代斯波兼頼が築城し、十一代の最上義光が現在の姿に拡張し城下町を整備したといわれている。最上家国替え後は、石高は減少し、城と城下は衰退の一途を辿るが、それも歴史の一部にとらえ、時代背景や城主と石高などを明らかにしながら比較展示を行い、その変遷を紹介する。また、城絵図は当時城郭の防備を図示する最高機密の情報媒体であるが、同じ時代の絵図でも、書き記された内容に差異がみられる。そ

る。それらの謎も可能な限り解き明かし、城郭の魅力や絵図の見どころなども紹介する。あわせて、現在発掘復原作業が進められている山形城跡に対する関心を高め理解を深める一助とする。

(2) 普及啓発事業

① 歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

② ボランティアに係わる事業

最上義光を啓発することについて、ボランティアという形で歴史館のサポーターとなって、来館者への案内や説明などのサービス提供を担う市民団体「義光会」を支援する。

1) 「義光塾」〔年3回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で説明が可能となるようにスキルアップを図る。

2) 「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等を現地研修し、現地に赴くことによってボランティアが郷土史と文化財に対する知識と理解を深め、来館者に対してより質の高い説明が可能となるようにスキルアップを図る。

③ ICTに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体とし、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。展示事業とリンクさせて、映像をはじめとする様々な情報をICTに係わる媒体を介して提供し、最上家や郷土の歴史、山形の文化遺産等の啓発も行う。

④ 『館だより』〔年1回〕

歴史館の事業報告や、山形の歴史や最上家に関する研究や考察などの最新情報を年刊紙面にて広く提供する。ICT事業にリンクさせ、論文やコラム等は個別にホームページへ記事掲載を行うことで、ホームページからのダウンロードを可能とする。

(3) 調査研究事業

① 最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備

を行う。

② 収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた電子化作業を行い、資料の有効保存と情報の発信を目指す。